

(別紙1-1)《会派用》

令和元年 9月12日

狭山市議会議長

加賀谷 勉 様

会派名 日本共産党
代表者氏名 猪股 嘉直



研 修 会 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。



代 表 者 猪股 嘉直 様

研修者(代表)氏名 猪股 嘉直



研 修 会 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

1 期 間 令和元年 8月23日～8月24日 (1泊2日)

2 研修会名

第11回生活保護問題議員研修会

3 研修会主催者

共催 生活保護問題対策全国会議
全国公的扶助研究会

4 開催場所

新潟県立大学

5 研修会参加人数 2 人

参加者は次のとおり

猪股 嘉直

衣川 千代子

6 研修会スケジュール

別紙(申請時提出済)

7 研修会概要

別紙のとおり

2019 第 11 回生活保護問題議員研修会

【8月23日・24日】

基調報告「生活保護の現状と改革の
論点～地方は何ができるか」

「地方から生活保護行政は変えられる！」

「福祉事務所における自立支援の取り組み」

「元福祉事務所長が語る、議会質問 10 の心得」

上記のテーマを、全国公的扶助研究会会長で花園大学教授の吉永純氏の報告、大学准教授やケースワーカー、小田原市の職員、元生活保護受給者さんのミニシンポジウム、生活保護者の自立支援に取組む自治体の職員さんの報告などで学びました。

地方から「生活保護を変える」テーマでは自治体の首長の姿勢、議会の動向、議員の活動、行政組織（福祉事務所等管理職）、職員集団（S、V、CW）などで大きな格差が生まれると。

特に印象に残ったのは、ジャンパー事件を起こした小田原市職員の報告でした。小田原市では 2017 年に明るみに出た「保護なめんな」「不正を罰する」などと保護利用者を威圧するような言葉がプリントされたジャンパーを着て、保護利用世帯を訪問していたという事件が表面しました。

この事が社会からの大きな批判を呼び、小田原市はこの問題を徹底して議論し、改善・改革に取り組みました。その号令をかけたのは市長です。以後、小田原市の生活保護行政は、真に保護利用者に寄り添った、当り前の生活保護行政になりました。「保護のしおり」を見ればその変化は歴然とします。

生活保護の相談を受ける部屋の問題もあります。狭山市では、私が議員になった当時は、決して整然としていたとは言いがたいのですが、相談する部屋がありました。私は何度か、その部屋で相談者に付き添ったことがあります。ところが、今はカウンターでの相談で、プライバシーも何もありません。相談室が取調室のようではあってはなりません、レイアウトも考え、利用者が相談しやすい環境を整える必要があると考えました。

生活保護に従事する職員の問題もあります。ワーカー1人当たりの担当するケースの数。80件を守るようにと指導がされていますが、それを超える自治体も多数見られます。ちなみに、9月議会で私が質疑したところ狭山市ではほぼ80件でした。

生活保護行政で議員が果たす役割が非常に大きいことも指摘されました。議会の権限を最大限に活用し、条例、要項、規則づくりへのはたらきかけ、保護に係わる事件への積極的



小田原市のジャンパー事件を報告する、小田原市企画部職員。

関与（自治体への働きかけや住民への告発）が生活保護行政の改善へとつながる。

議会質問については、他の自治体の取り組みや数値と比較して、課題を指摘していく。相談件数や開始、却下、廃止件数などの数値を資料として質問することも大事である。自治体の生活保護運営全般への姿勢を確かめることも必要である。生活保護ワーカーの担当標準数が80と示されている中、実態はワーカー1人100世帯となっている。職員にとってかなりの負担となっていると思われ、適切な生活保護の実施に影響が出ていると推察される。

ワーカーの資格や経験年数、そして組織体制にも関連した質問をしていくことで生活保護の適切な運営ができるようにしていくことも、ぜひやってほしいとの助言などがありました。

分科会で「自動車保有要件の緩和をめざす」というテーマに参加しました。どこでも、自動車保有では悩まれているようですが、これはむしろ積極的に認めるべきと私は考えます。その方が、仕事に就くのに便利ですし、子どもを保育所に預けて仕事するのも絶対的に有利です。市はかたくなに、ダメと言いますが、場合に寄っては「いじめ」とさえ思えることがありました。生保受給を断る口実にしているのではとも思います。

私たち議員団は今年の春に、認めさせた事例があり、その報告をしました。大腸がんの患者で、オペ後、トイレに行きたいときに待たないになるケースです。公共交通で病院などに行くと、トイレにすぐには入れません。車ならば、行きたいときにコンビニ等の利用ができるため、何とでもと話があり、生活福祉課と交渉して認めてもらいました。この事例は他の参加者からも評価されました。

猪股 嘉直・衣川千代子